



2015 年 (平成 27 年)
2 月号 (No. 837)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価 1 部 150 円

会員の会報購読料は年会費に
含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>

e-mail ● jac-room@jac.or.jp

目 次

南アルプスの自然保護と	
リニア中央新幹線工事について	1
日本山岳会の財政問題(3)	4
2014 第3期マッキンリー気象観測登山隊報告	6
追悼 山田二郎さんを偲ぶ	8
ビル・パトナムさんを偲ぶ	9
「山の日」フォーラム開催へ 東京・有楽町で2日間	10
東西南北	11
活動報告	14
集会委員会/図書委員会	
支部だより	15
秋田支部/越後支部/東九州支部	
図書紹介	18
図書受入報告	18
Climbing&Medicine-66	20
会務報告	20
新入会員	21
ルーム日誌	22
会員異動	22
INFORMATION	22
編集後記	23

▶ 日本山岳会事務局(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10~20時
水・金……………13~20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10~18時

南アルプスの自然保護と リニア中央新幹線工事について

ユネスコのエコパークにも登録された南アルプスの地下を貫くリニア中央新幹線の「環境影響評価準備書(静岡県)」が公告された。この計画が南アルプスと周辺の自然環境にどのような影響を及ぼすのか。静岡県内4山岳団体はこの地域の自然保護に協同で取り組むことを決めた。

白鳥勝治

南アルプスは静岡県、山梨県、長野県にまたがる3000m以上の嶺峰13座を有する赤石山脈を主体とした国立公園である。

2014年、南アルプスは国立公園指定50年を迎えた。また、6月には、静岡県静岡市、川根本町、山梨県韮崎市、南アルプス市、北杜市、早川町、長野県飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村の3県の

南アルプス周辺10市町村の協力と関係者の尽力により、1976年に始まったユネスコの自然保護事業エコパーク登録を取得した。

ユネスコのエコパークは、多くの動植物の生育が可能で、法的にも厳しく保護され、長期的に保全されている「核心地域」と、核心地域の周囲または隣接する地域で、核心地域を担保する機能を持ち、

教育や研修、エコツーリズムなど自然の保全・持続可能な利活用への理解の促進、将来の担い手の育成等が行なわれる「緩衝地域」、および人々が居住し生活を営んでおり、自然環境の保全と調和した持続可能な地域社会の発展のためのモデル地域であることが求められる「移行地域」の3つの区域を示す必要がある。

2013年の9月、かねてより計画を進めていたJR東海は、この南アルプスのほぼ中央部、エコパーク「移行地域」内の塩見岳(3046m)と荒川東岳(3141m)の間の地下深くを通る、リニア中央新幹線新設の「環境影響評価準備書(静岡県)」を公告した。それにより、東京の品川駅から名古屋駅間に敷設されるリニア式路線、

延長28.6kmのうち、静岡県内(静岡市内)はすべてトンネルで、山梨県早川町から長野県大鹿村に抜ける延長22kmのうち静岡市内10.7kmと、大井川源流域の二軒小屋付近に設置される非常口2ヶ所の工事内容が明らかになった。

JR東海が公告したりニア新幹線の「環境影響評価準備書(静岡県)」について、静岡県は、JR東海の県環境評価審査会での説明を踏まえて、14年1月21日、環境評価法制度に基づく公聴会を静岡市葵区で開催した。

ここではJR東海が大井川源流域における当該工事で河川流量に毎秒2tの減水と予測したことについて、流域の自治体の関係者から、大井川における毎秒2tの水量は、下流域の島田市、藤枝市、焼

津市、掛川市、菊川市、御前崎市、牧の原市の7市約63万人が大井川から貰っている生活用水の最大取水量と同量であるとして、大井川流量の毎秒2tの減水は重大な問題だとする強い意見が出た。また、大井川周辺地域の主要作物であるお茶をはじめとする1万2000haにおよぶ田畑の農業用水のほか、工業用水など生活、産業、環境等を支える「命の水」であり、看過できない問題だと意見が多く出された。

一方、リニア新幹線の通る位置より30kmほど下流の井川ダム周辺に住んでいる、静岡市葵区井川地区住民約600人はリニア新幹線工事について、下流域の人々とはやや異なる感覚を持っているように思う。

南アルプス静岡県域の3000m以上の嶺峰10座がある井川地区は、全長168kmの大井川上流部にあり、市街地から60kmほど離れた居住区である。井川地区の人口は、1960年ごろ、井川ダム建設に関係する人々を含めて一時8000人以上を擁したが、現状は10分の1以下に減少している。人口減少の理由のひとつは交通の不

便さである。市街地中心部からの主要路は、安倍川を遡行して標高1200mの大日峠か1100mの富士見峠を越える2本の県道で往来する。道路は山間地部分が多く、双方とも峠の標高が高いため降雪時は支障が多い。また、県道はいずれも大規模な地滑り地帯を通過しているため、豪雨時など、崩落による通行止めがしばしば起こる。しかし、リニア新幹線工事にはこのルートを通らなければ、長期の工事に携わる最大時700人と発表されている大勢の人も、多くの機器機材も現場に届けることはできない。

井川地区の住民には、今回の工事で排出量が360万㎡と予想されているトンネル掘削土についても、地域としての考え方があるように思う。戦後、電源開発で集団的な居住地移転を受け入れてきた井川ダムの建設をはじめ、居住地から離れているとはいえ、上流域にある畑籾第一ダム、第二ダムや赤石ダムなど地域内にある6ヶ所のダム建設や、付随する取水トンネル工事など、大規模な土木工事を長年にわたり受け入れてきた経緯があり、多くの経験を重ねてき



各地の現地視察も行なった

た井川地区の住民にはトンネル掘削土処理についても独自の考え方もあるように思うのである。今、井川地区の住民の中には、この機会に長い間懸案となっている市街地中心部とのアクセス道路の改善など生活環境の大幅な改善が可能なら、リニア新幹線工事を歓迎する考え方もあるのは否定できない。

以上のように、リニア新幹線工事については多岐にわたる問題があるため、私たち登山愛好者の自然保護の感覚だけでは取り組みが難しい。しかし、静岡県は大井川の水問題について、過去にダム建設による取水が漂流水を激減させ、江戸時代は通常水深が二尺五寸

(75cm)以上あって、越すに越されぬ大井川。とうたわれた川が砂漠化し、流域周辺で政治問題化した事例があるため、静岡県の川勝知事はJR東海に対して厳しい姿勢を崩していない。また、田辺静岡市長もリニア新幹線工事については、エコパーク登録の維持継続にかかわる問題であり、これを市の重要課題としているため、自然環境保全を重視した慎重な対応を重ねてJR東海に求めている。

静岡支部は、このように多くの課題を抱えているリニア新幹線問題について、南アルプスがユネスコのエコパークに登録されたことから、地元 mountain 団体の一員としてエコパークの目的である「自然と人間社会の共生」を基本とした南アルプスの自然保護活動に焦点を絞り、自主性を持って臨もうと考えた。

静岡県山岳連盟、静岡県勤労者山岳連盟、静岡市山岳連盟に呼びかけを行ない、静岡県内の4山岳団体が協調し、自主性を持って、県当局や静岡市の担当部門と連携を図りながら南アルプスの自然保護課題に取り組むことにした。

県内4山岳団体は初めての具体的な行動として、エコパークの「移

行地域」に設置されるリニア新幹線の非常用出口から排出される360万㎡に及ぶトンネル掘削土と、トンネル工事による毎秒2tと予測される大井川の流量の減少について、9月10日、4山岳団体の代表が県庁に赴き、川勝平太静岡県知事へ団体代表者の連名による左記のごとき申し入れ書を提出した。

また、10月9日、同様の申し入れ書を田辺信宏静岡市長に面会を求め提出した。

静岡県知事 川勝平太殿
平成26年9月10日

リニア中央新幹線南アルプストーンル工事に関する申し入れ書

静岡県山岳連盟(代表 滝田博之)
静岡市山岳連盟(代表 松永義夫)
静岡県勤労者山岳連盟

(代表 竹本幸造)
公益社団法人 日本山岳会静岡支部
(代表 大島康弘)

リニア中央新幹線、南アルプストーンル工事の残土処分と地下水湧出に関してJR東海の対策は現段階において、ずさんであると言

わざるを得ません。

大井川の上流、二軒小屋の地下500m付近を貫通するトンネル掘削の残土は斜坑より二軒小屋付近に運び上げられて、谷筋の中部電力残土置き場の上積み、一部は転付峠北方の尾根付近にも投棄されること。私たちが静岡県の人、残土をこの美しい渓谷や山に投棄することによって大井川上流の自然景観が破壊されるのではないかと大きな危惧を抱いております。

さらに水の問題が指摘されています。地下水脈は私達の理解を超えるほどに複雑で、今なお、年間



静岡県内4山岳団体代表による静岡県知事への申し入れ

4mmの隆起を続けている南アルプスの破砕帯を貫通するトンネルが地下水脈を思わぬ方向に導くことは容易に想像できます。また、調査の結果、トンネル工事で大井川の水量が毎秒2トン減水すると予測されていますが、その場合はポンプで大井川に戻すとのこと。トンネルの500m上部を流れる大井川までポンプで汲み上げるとは恐れ入りますが、そのためには20000kwもの大規模な揚水設備が必要になり、リニア新幹線の膨大な電力消費をさらに押し上げることとなります。

先の敗戦の後、農業、水質汚濁、大気汚染などにより、多様な生物に溢れていた野山の豊かな生態系はすでに取り返しのつかないほど破壊されています。私たちは豊かさや便利さのために貴重な自然をこれ以上壊すことに慎重でなければなりません。静岡県が、リニア新幹線のトンネル工事により、大井川上流域の生態系や自然景観が破壊されるであろうことを深刻に受け止め、計画路線の変更も視野に入れながらJR東海を指導するよう、次の2点について知事に要請いたします。

残土を大井川渓谷に投棄しないこと。
大井川の水量を低下させないこと。

時を同じくして、本年6月、南アルプスはユネスコエコパーク登録承認されました。

南アルプスは太古の自然が息づく、日本に残された数少ない地域です。この地域を保全することが、リニア新幹線のトンネル工事に優先することは言うまでもありません。私たちが静岡県の山岳関係者は、南アルプスの大自然を享受してきた者として、その豊かな生態系を私たちの子孫に手つかずのまま継承することが、最も大切と信じるからです。

お詫びと訂正

2015年1月号の当コーナー(巻頭記事)において左記の誤りがありました。お詫びして訂正します。

(誤) 2013年4月に山岳5団体による「山の日制定協議会」が開始して以来、3年目を迎えた。

(正) 2010年4月に山岳5団体による「山の日」制定協議会が開始して以来、6年目を迎えた。

日本山岳会の財政問題(3)

財務担当理事 吉川正幸

会費収入を考える

日本山岳会は、新入会員よりも高齢化による退会者・物故者が多く、会費収入も減少するというデス・スパイラル(悪循環)に陥っている。この悪循環から脱する方法のひとつとして、助成金や寄付金を募って新事業を始め、新入会員を集めようという提案を行なった。

しかし、会費収入は当会の財政基盤であって、会費収入を増やすことが、目下の最大の課題である。会費収入を増やすためには、会費の値上げによらず会員数を増やす方策を考えるしかない。そのために会費の値下げや入会金の廃止も考えるべきである。

こんなことを日夜考えているが、登山用品メーカーとして多店舗を

支部名	支部会員数	新入会員数	増加割合
北海道	320	42	15.1%
東京多摩	271	17	6.7%
広島	173	16	10.2%
越後	217	10	4.8%
関西	244	9	3.8%
静岡	144	8	5.9%
群馬	28	7	33.3%
北海道	180	6	3.4%
埼玉	146	6	4.3%
千葉	97	6	6.6%
四国	68	6	9.7%
他21支部	1,416	33	2.4%
支部合計	3,304	166	5.3%

経営するモンベル社のカード会員が50万人を超えたことが耳に入ってきた。筆者も会員であるが、カード会員になれば登山用品を購入する際の割引(ポイント)があるので、会費が増えるのである。仮に、当会の会費をモンベルカードのように1500円にしても、会員数が50万人もあれば、会費収入は現在の15倍になるので、余裕を持って運営できることになる。仮定の話ではあるが、会員数が増えれば会の活動の幅が広がるだけでなく、会費も下げられるということである。高望みをしなくとも、現在の会員が、12年前の6000人になるだけでも、会の運営は安定するのである。

会員が増える支部の理由

上の表を見ていただきたい。昨年度の支部の会員数と1年間の新入会員数である。新入会員が多かった順に支部を並べている。入会者が5名以下の支部はまとめて合計している。合計会員数が4000人に満たないのは、首都圏の会員など支部に属さない会員を除いて

いるからである。また、取り上げているのは新入会員数だけであり、退会者、物故者数を考慮した純増数ではない。新入会員5名以下の21支部の新入会員増加率は、わずか2.4%に過ぎない。新入会員増加4%以下の大半の支部では、新入会員数から退会者と物故者の数を差し引くと、支部会員数は純減になっている。このことは、多くの支部がデス・スパイラルに陥っていることを示している。

新入会員増加の上位の支部を見てみると、東海支部や広島支部などの一部の支部に偏っていることがわかる。そうした支部の事情を調べたところ、共通するのは、地域で登山教室などの活動を行なっていたり支部独自の会友、支部会員などの独自の会員制度(以下支部友という)を設けていることである。その支部友の中から、数年後に当会への入会者が出てくるヒントがわかった。足元に会の再生のヒントが転がっていたのである。支部友は支部ごとに各々異なっているが、登山教室などの参加者を仲間として迎え入れているもので、直ちに日本山岳会会員となることを躊躇する方の踊り場になっ

ていると聞く。すなわち、支部友という裾野が広いほど、新入会員が増えるようである。支部友には、会費ほど高くないが、支部の活動費の一部を支部会費として負担してもらっている例が多い。

支部友制は、現場の必要性から自然発生したものであるが、結果からすると、新入会員の増加につながっていた。多様な新会員の増加は支部の活性化につながり、元気の出る好循環のサイクルに入ったのである。支部友制は日本山岳会の正規の会員制度ではないが、当会がデス・スパイラルから脱出するために無視できない存在である。

ヨーロッパの山岳会の会員制度

内外の山岳団体を見渡すと様々な会員制度がある。日本山岳会の会員制度と会費を考えるために、ヨーロッパ各国を代表する山岳会の会員制度と会費について調べてみた。

英国山岳会 (The Alpine Club)

は、最初で最古の山岳会であるが、現在でも正会員になるには厳しい入会資格があり、その代わりに以下の3つの会員制度を持っている。入会金はない。

①正会員 (Full Membership) になるには、アルプスまたは同等の高

山での平均以上の20ルート以上の登山経験と英国山岳会正会員の推薦者を必要としている。つまり、ピッケルとロープを使う豊富な登山経験がないと正会員にはなれない。年会費は50ポンド(約9千円)で、30歳未満と65歳以上には減額がある。

② 準会員 (Aspirant Membership) 正会員候補と訳すのが正しいが準会員とした)には、アルプスまたは同等の山岳の登山経験が少しでもあれば、推薦によって準会員になれる。準会員は、5年以内に正会員の資格の条件を満たした場合に、正会員になることができる。年会費は、正会員と全く同じである。

③ 会友 (Associateship) には、登山者でなくとも山の歴史、地理学、芸術、生態、環境などに興味を持っている者は、資格審査なしで会友になれる。年会費は、50ポンド(約9千円)で、年齢による減額はない。ホームページを見ると、新入会員紹介の人数と会員死亡告知の人数が同じくらいであり、会員数は多くはなく、高齢化が進んでいることが推測できる。英国山岳会を紹介しているインターネット上の情報サイトでは、登山者の間では「老人クラブ」と言われていると評

されている。

ドイツ山岳会(Deutscher Alpenverein) 会員数は、なんと100万人を超えており、支部の数は353、325の山小屋、180のロッククライミングジムも保有している。資格審査などはない。会費は45ユーロから90ユーロ(約13000円)で割引制度がある。会員になると年6回の雑誌の配布を受けることができ、2000を超え山小屋の割引利用や登山教室に参加することができる。会費に応じた登山保険に加入することになり、会員となるとオーストリア山岳連盟(The Austrian Alpine Club) 会員数は47万人以上であり、驚くべきことにこの数字はオーストリアの人口の5%を超える。195の支部があり、216の山小屋を保有している。インターネットで入会申し込みが可能で、その日から会員になれる。会員のメリットは、登山保険の付与、アルプスの1700以上の山小屋の料金ディスカウントなどである。年会費は57ユーロ(約8500円)で、青少年と60歳以上は減額される。6歳以下の子ども会費21ユーロもある。

フランス山岳会を含むヨーロッパ大陸の山岳会は、入会審査と入会金がないこと、多数の会員を有することは同じである。会員の構成は、例えばドイツ山岳会では女性の割合は4割、25歳以下会員が23.5%となっていて若い会員が多い。登山の指導や教室が地域ごとにある支部で行なわれている点も同じ。これらの巨大山岳会は、山岳保険や山小屋利用のための登山者連盟と言ったほうがよいかもしれない。

財政再建と復活への道

英国山岳会とヨーロッパ大陸山岳会の会員制度のあり方は全く異なるが、各種の会員サービスを設けている。一方において当会は、夫婦会員と青年会員の会費減額制度はあるが、単一の会員制度をとっている。元氣な支部では、様々な催しと会員サービスを実施している。支部友の制度は、支部ごとに異なり、また公式なものではない。これらを考え合わせると、当会の会員増強のための方策には、まだまだ工夫の余地がある。

私見になるが、支部友制が新入会員獲得に実績を挙げている点を考えると、英国山岳会のように、準会員や賛助会員の制度を設けるこ

とが会員増加策の糸口になると思われる。しかし、正会員と準会員等の会費を同額とするのでは、入会者を増やすための垣根を低くすることに是不ならない。会員資格制度について議論する紙面はないが、エリート「アルプス登山クラブ」として厳密な資格審査がある英国山岳会の例は参考にはならない。同じように当会が、登山エリートのクラブとして小さくまとまる方向では、会員の増加に結びつかず、財政破綻の時期を早めることになりかねないからである。決して安易な拡大路線を勧めるものではないが、当会の創立時からの理念である登山振興、山岳調査、環境保全を行なう山の親睦団体として、幅広く仲間を増やすことを考えるべきだろう。会員増加策と会員制度の検討は、当会の会員増強・財政基盤検討委員会において、端緒をついたばかりである。しかし、赤字決算が続く現在の当会の財政状況からすると、一刻も早く結論を出すことが必要である。デ・ス・パイラルから脱するために、会員を増やすことに知恵を絞る、実行に移すことしか、日本山岳会が生き延びる方法はないものと考えられる。

Science

2014 第3期マツキンリー気象観測 登山隊報告

マツキンリーワーキンググループ委員長 大蔵喜福

これまでに20年間継続した高所気象観測のデータは、高所登山のためだけでなく、航空関連、天災地震関係など北極を中心とするジェットストリームの跛行現象の解明にも寄与できたとの自負があるが、世界でも稀にみる高所かつ北極圏における気象観測は、さらに長期間継続してデータを収集することによって得られる知見があると考えられる。

アラスカ大学IARCと水理環境センターは、これらの観点から、また、長年の共同研究の実績から私の観測再開計画に対して支援・協力を示してくれ、さらに、以前から長期にわたり支援をいただいていた電源開発(株)からの寄付の再開見込みが立ったことから、第3期の気象観測のための検討が、2013年初頭から日本山岳会の公益法人運営委員会とマツキンリーワーキンググループで始まった。

しかし、13年に入り、中心となつてこのプロジェクトを推し進めて

くれていた水理環境センターの吉川教授が、第3期の観測のため機器設置を申請したが、地元におけるマツキンリー峰登頂100周年記念登山などの行事があり、そのあと環境アセスメントを行なう必要があるとして、デナリ国立公園管理局から設置許可を得られなかった。

また、再開にあたりもうひとつの障害が起きた。機器の設置を目的とする私の観測登山隊が、長年の実績はあっても、今年は応募の方法が公開であること、また登山技術の未熟な隊員がいること、観測隊としての特別な許可がないまま、調査のみを目的とするだけでは、私自身のガイド登山と変わりが無いとの判断で、直前に登山許可を取り消す公園管理局の対応である。デナリ国立公園への公募(商業)登山隊の入域は、地元登山ガイド会社にしか許可されていない。私の率いる隊は、公募(商業)登山と疑われ、マツキンリーに入るこ



6月28日快晴の頂上の筆者

とができなかった。

この理由は、地元登山ガイド振興策であると推定されるが、公園管理局による自然保護政策として規制化されていて、打開は困難であると判断した。このため、名誉を挽回するために多くの仲間の協力をいただいたが、14年からの活動を可能にする申し開き書などいくつも具申した。その甲斐と吉川教授の努力もあって、私の実績が再評価され、パークサービスからは機器設置の登山にはぜひ私の参加を、と請われた。そして登山の許可も下りた。

今年のマツキンリー登山はひと月余りの期間中にふたつのプラン

を実践することになった。前半は気象観測の再開が決まり、第3期測器設置登山隊の実践。後半は、私の仲間3人との純粋な登山である。気象観測プロジェクトで設置する期間は最長6月10日までとし、一度下山し、頂上を目指す仲間と一緒にブリーフィングを受け11日より20日間をその登山にあてた(登山は積雪との戦いの結果、やつと28日に日程ギリギリで登頂、登頂率は下山時に35%であった)。

気象観測機器設置登山隊の動向を下記に示す。

天候不順で3日間タルキートナの街で足止めをくつた。ようやく6月2日にカヒルトナ氷河に降り立った。通い詰めた見慣れた景色だが、端麗な曲線を持つ純白で広大な雪水の流れには愛しささえ覚える。その美しさは25年間まつたく変わらない。09年、20年間の気象観測機器設置許可終了に伴い、翌10年6月のウエザーステーション解体・荷下げをもつて第2期の気象観測登山隊を終了してから、丸4年が経っていた。

観測隊はアラスカ大学水理環境センターおよびデナリ国立公園局と日本山岳会マツキンリー気象観



14350m エジオプザワールドの尖岩に設置した自動気象観測装置

測ワーキンググループ3者共同のプロジェクトである。本年度以降、数年をかけた複数の気象観測機器を山中に設置する予定で、観測項目は登山関連だけでなく、デナリ国立公園とその周辺へも寄与する内容となり、さらに観測データは公園内ネットワークの確立で広く各方面に利用されることを目指している。

今回の設置場所は天候によって西稜の肩4900mかメディカルキャンプ東端の4300mかのどちらかにする予定、パーティはアラスカ大学水理環境センター・吉川謙二教授、そしてケン・アービン技師と私の3人。

2日からの設置隊はパークサーピス隊員の直接参加は望めなかった。で、臺の立った年配者では運べる荷物に限界がある。50代前半の教授に還暦を過ぎた2人だ。観測機器類についてはメディカルキャンプ(4300m)のレンジャーステーションまで、ヘリコプターでの荷揚げを依頼した。センサーだけでなく、工作機械にバッテリーなど重量にして60kgほど。若者のいない少人数隊なので大助かりである。隊はメディカルキャンプまでの日程に必要な食糧と装備約90kgをそれぞれのソリとザックに分けて背負い引く。氷河歩きに慣れた者ばかりで安心、特にケンにはスキートの達人で大助かりだ。2人分のソリを楽々と引く。

カヒルトナ南東支流氷河にあるエアータクシーのランディングポイントには2250m。カヒルトナ氷河本流へは300m弱の下りで、そのボトムは約2000m。だから頂上との標高差は4000mを優に超す。氷河の状況で例年と異なるのは積雪の量だ。明らかに大量の積雪でルートは直線的になって、距離もある程度短くヒドンクレバスの危険性は少ない。幾分楽に行動できる。教授はスプリットボー

ド、ケンと私はスキーだ。初日は午後2時に出発、シール装着でC1予定の2400m地点に午後7時半に着く。距離は約10km、最初は下りだから滑りに慣れていないと、引くソリに振り回され相当てこずる。滑りが達者なチームでほっとした。

新しい機材では、記録装置のデータ回収の必要もなく、マッキンリ一峰の気象を衛星電話回線により常時モニターできるのである。

6月3日晴天、C2へ5kmほど移動。お昼から7時間かけて2900m地点へ。このところタクティクスが変わり、C2はあまり使われなくなつたようで、2〜3張のテントで寂しい限りだ。翌4日も晴天のなか4km4時間半で、キャッシュキヤンプ3400mへ。距離は短い傾斜が強く、標高差は500m近くある。重雪のあるソリを引いてのスキー歩行はある意味限界、ここから先は荷揚げという手段で移動ということになる。5日は1日中雪、停滞して身体を休める。

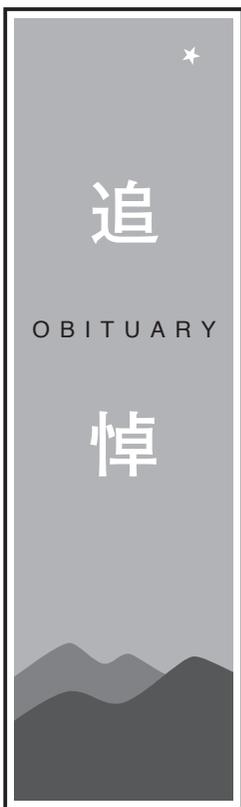
翌6日は距離4km、1000mの高度差を1日で移動、レンジャールの詰所とメディカルテントのある4300mのメディカルキャンプへ。

7日、小雪の中、メディカルキャンプの東端の絶壁の小尖塔に測器第1号を設置した。新しい第一歩を踏み出すことができた。毎日の最大限の行動で短期間の据付けができ、うれしかった。来期はさらに上部、そして……。

6月8日は丸1日かけて、一気に呵成にランディングポイントに滑り降りた。日焼けにより顔と手は赤銅色になつた。乾杯のビールは爪先まで染み込んで、至福の時を運んでくれた。ただ、翌日から3日間、雪模様で飛行機は来られず、氷河上の滑走路を毎日、せつせと踏んだ。

観測開始から今年で25年が過ぎた。本当に走馬灯のように四半世紀を思い出す。デナリパス周辺の氷河調査もし、いろいろなことがあった。来期からの気象観測ステーションを設置する作業も、アラスカ大学水理環境センターを中心に、パークサーピスの協力で新たな組織体制が生まれ、期待が膨らむ。

今後の課題は、継続的な観測を行なうための、日本山岳会をはじめとする支援体制の整備と考える。



OBITUARY
山田二郎さんを偲ぶ

田辺 壽

昨年12月18日、山田二郎さんが93歳で亡くなられた。

山田さんは中学生のころから、同じ慶應の山岳部で育ったお兄さんに連れられてよく登ったのが、山登りの始まりだったとのことである。

太平洋戦争のとき、山田さんは学徒動員で戦車隊の隊長として働



山田二郎 (やまだ・じろう) 会員No.3473

- 1922年 山田乙三・静子の二男として生まれる。
- 1940年 東京府立第六中学校を卒業。兄秀介のあとを追って慶應義塾大学に入学、同山岳部に入部。
- 1942年 加藤喜一郎とともに冬の北鎌尾根に極地法で登山、冬期北鎌尾根を末端より初完登する。
- 1943年 日本陸軍戦車隊に入隊。
- 1945年 終戦後に復学、チーフリーダーとして山岳部の再建に努める。
- 1949年 日本山岳会入会。横有恒を社長とする佐倉飼料に入社。
- 1952年 結婚。
- 1953年 第1次マナスル登山隊参加。(株)ミクニ入社。
- 1954年 第2次マナスル登山隊参加。
- 1960年 慶應義塾創立100年記念ヒマルチュリ登山隊長としてヒマルチュリ峰初登頂に成功。
- 1970年 (株)ミクニ社取締役就任。
- 1978年 ミクニアメリカン社長就任。
- 1979年 同社専務就任
- 1989年 日本山岳会会長就任。
- 1991年 日中合同ナムチェパルワ登山隊総隊長。
- 1992年 前年に引き続き総隊長を務め、同峰初登頂。
- 1993年 日本山岳会名誉会員。
- 2014年 病気のため93歳で永眠。

き、終戦と同時に学校にストレートに復帰し、山岳部の復興に努めた。

慶應山岳部でも日本山岳会でも山田さんはまったく変わらず、非常に真面目なリーダーだった。そしてまた、山田さんはひとりのクライマーとしての力量とオーガナイザーとしての力量も併せ持った、優れた登山家だった。クライマーとして山田さんは終戦直前、冬の槍ヶ岳・北鎌尾根を末端から頂まで初完登した。

そして、日本山岳会がヒマラヤ時代の夜明けを迎えたとき、日本の冬山からヒマラヤへの路を拓いた、若いクライマーの一群の1人だった。

一方、山田さんはリーダーとして優れたクライマーだった。

慶應義塾創立100年ヒマルチュリ登山隊の隊長として初登頂し、日本山岳会にあっても会長を務め、また、ナムチェパルワ登山隊のリーダーを2度にわたって務め、これも初登頂の成果を挙げた。

私が慶應のヒマルチュリの隊で山田さんと登ったときの、忘れられないひとこまがある。

——あれはヒマルチュリの第4キャンプ地を探して、重い荷を背負って登っているときのことだった。

た。

そのときは深いガスの中で私たち若い隊員が「こんなガスの中登っても無駄だ」と文句を言っていた。そのとき山田隊長が、「合理主義の衣を被ったイージーゴイングはイカン！」と言って先頭に立って登った。山田さんの隊長としてのリーダーシップは、今も胸に残る。

剛直にして真面目な山田さんは慶應山岳部・日本山岳会を通じて優れたリーダーだった。

そして一面、山田さんの奥さんに対する優しさも、山田さんの人間としての魅力を惹き立てている。あるとき、若い部員が私の所へ山田さん一家の集合写真を持って来た。山田さんが奥さんの膝に優しく手を載せていると言って騒いだ。

正に強くなければ男ではない。優しくなければ男ではない。

そんな山田さんは、もういない。

Memory

ビル・パトナムさんを偲ぶ

中村保



Bill in Las Vegas—右が愛妻の故キティーさん

私の恩人、アメリカ登山界の重鎮、ビル・パトナムさんが昨年12月20日に他界された。享年90。本名ウイリアム・ローウェル・パトナム(1924—2014)。アリゾナ州フラグスタフにある火星研究と冥王星の発見で有名なローウェル天文台の創設者、パーシバル・ローウェルの甥の孫にあたる。自身も長年館長を勤めてきた。

私が初めてお会いしたのは2002年の国際山岳連盟(UIAA)アリゾナ総会である。以後、アメ

リカ山岳会04年ラスヴェガス総会、07年オレゴン総会、11年UIAAカトマンズ総会でお会いしている。

英語が難解、強持でどつつきにくい、笑顔は人なつこい優しい表情になる。JACの英文ジャーナルを評価、私に目をかけてくださった。07年にはアメリカ山岳会の名誉会員推挙、昨年はUIAAの名誉会員に推薦していただいた『山』14年11月号・小野寺齊さん記。

パトナムさんはマサチューセッツ州に生まれ、ハーバード大で地質学を学んだ。第二次大戦に従軍し、胸部に重症を負う。このため後年高所に行けなくなったのかもしれない。職業的キャリアとしては放送業界で活躍して名声を馳せた。

ヒマラヤン・クライマーではなかったためか、登山家としての名声は世界的とは言えないが、北米の登山界とUIAAへの貢献は多大である。

カナダ、ブリティッシュ・コロンビアの内陸山脈、セルカーク山塊で幾つもの初登頂をし、探検的遠征を実践した。02年にフェアリーメドローの山小屋は彼に因んでビ

ル・パトナム・ハットと命名された。アメリカ山岳会発行の『A Climber's Guide to the Interior Ranges of British Columbia』を半世紀ぶりに繙いたら、その著者がパトナムさんであることを初めて知り感無量だった。

アメリカで一番古いアパラチア山岳会、アメリカ山岳会、カナダ山岳会の名誉会員はもとより、K2のロバート・ベイツに次いで2人目のアメリカ山岳会名誉会長にも就任した。

多くの本も書いた。『アメリカン・アルピニズムの100年』、『K2—1939年の悲劇』、『スイス—カナダ登山ガイド文献』などである。

30年間、UIAAのアメリカとカナダの代表を務め、丹部節夫さんとも連携して積極的に活動した。1993年に名誉会員になられた。副会長としてのパトナムさんの使命はUIAAを国際的な山岳連盟に育てることであつた。

能登半島がパトナムさんの縁故の土地である。ボストンの名家に生まれた天文台創設者「知られざるジャパノロジスト」パーシバル・ローウェル(1855—1916)

は東洋に憧れ、明治初期の1883年来日、ラフカディオ・ハーンに影響を与えた。

能登半島踏査の折には石川県穴水町を訪れ、宣教師ウォルター・ウエストンより早く北アルプスに入り、針ノ木峠を越えている。1891年には『能登・人に知られぬ日本の辺境』を出版した。

パトナムさんは、1992年に穴水町を訪れ歓迎されている。穴水町はパーシバル・ローウェル顕彰碑が造られている。「ローウェル」と名付けられた杏入りの美味しいケーキが今でも売られている。2007年、UIAA松本総会の折にパトナムさんを能登にお連れする予定だったが、ドクターストップのため来日できなくなった。楽しみにしておられただけに、今でも残念に思っている。

追悼式はマサチューセッツ州のスプリングフィールドで12月27日に行なわれた。心からご冥福をお祈りする。



「山の日」フォーラム開催へ

東京・有楽町で2日間

「山の日」事業委員会担当理事 山賀純一

「山の日」のスタートを来年に控え、3月28日(土)、29日(日)の2日間、東京・有楽町の東京国際フォーラムを会場に「全国『山の日』フォーラム みんなで山を考えよう」が開催されることになりました。イベントの概要を紹介します。会員の皆様にはぜひ会場に足を運んで、機運を盛り上げていただきたく思います。

▽多彩な講演、討議

イベントの柱になるのは、山岳界の著名人や、山・森林、自然災害・山岳遭難などにかかわる識者が参加する多彩な講演、パネルディスカッションです。1日目のメインテーマは「山の日」と地方創生」です。大都市に比べると、地域の経済や社会をめぐるっては、衰退が著しいとの指摘が絶えません。「山の日」をきっかけに、身近な山々の豊かな自然を見つめ直し、それによって地域の活力を取り戻すことへの期待が込められています。日本の山岳に魅せられた外国人登山者や

観光客が増えている現状を踏まえ、地域としてどのように対応していくのかも探ります。注目を集めている「エコツーリズム」や「ロングトレイル」がキーワードになります。日本の山は森林がその魅力の多くを占めています。林業の将来像や森林セラピー、水源としての森林の大切さも考えます。

2日目は「山の日」と山と自然の安全がテーマです。昨秋の御嶽山噴火は、山に登るといふ行為に常にまわりつく自然の猛威、恐ろしさを、私たちに突き付けました。山岳遭難救助の実態や、御嶽山噴火により改めて注目を集めた登山届の大切さ、災害への備えなどを話し合います。



開催場所の東京国際フォーラム

未来を担う子どもたちが、登山などの自然体験を通じてその魅力や危険を知ることが、教育の観点からとても重要です。自然体験活動に伴う安全対策や、登山に求められる体力もテーマとなります。講演やパネルディスカッションの合間には、山岳映画の上映や著名人のトークを予定しています。

フォーラム会場に併設して、多数の出展ブースや野外ステージも設けられ、地方自治体やアウトドア関連企業、山小屋などが参加します。詳細についてはまだ確定していない部分も多くあります。全国「山の日」協議会のホームページなどを参照してください。

▽実行委で協力

「山の日」フォーラムは、全国「山の日」協議会が提唱しました。協議会は山岳5団体のみならず、国会議員、地方自治体、企業、環境関係等の団体、個人の有志で構成されており、日本山岳会はその主要メンバーです。フォーラムの主催は実行委員会が担い、協議会に加えて文部科学省、環境省、農林水産省(林野庁)、国土交通省(観光庁)、内閣府(警察庁)、総務省(消防庁)、東京都などで構成されます。実行委

員会の会長は、協議会の会長で衆議院議員の谷垣禎一さんが務めます。本会からは森武昭会長が委員に就き、フォーラムの成功に向けて協力する態勢をとります。

今回のフォーラムは「山の日」の実施が決まって以降、「山の日」に焦点を絞ったものとしては最大規模のイベントとなります。立案から実施までの期間が短いことから1月の理事会では、準備の遅れや規模の大きさから実現を危ぶむ声が聞かれたのも事実です。

私たちすべてにとって国民の祝日「山の日」は初めての活動テーマであり、それに向けた様々な取り組みも初めての課題であることは間違いないと思います。しかし、今年1月号会報「山」(836号)で萩原浩司さんが指摘されたように、山岳関係者以外の「山の日」に対する理解度はまだまだ低いのも現実です。東京・有楽町という利便性の良い場所で、子どもの春休み期間に大規模なイベントを実施することで、「山の日」の知名度や、その趣旨に対する多くの人の理解が得られれば、来年に向けた今後の山岳界全体の活動にとって、この上ない追い風になると信じています。

寄付金及び助成金などの受入報告

(学生部遠征隊募金の寄付を除く) 平成26年12月まで

寄付者	金額	寄付の目的、その他
日向祥剛 会員	25万円	北九州支部ルーム運営資金
井関正裕 会員	3万円	関西支部の活動のために
宮崎紘一 会員	10万円	新永年会員の記念として
平田大六 会員	1万円	新永年会員の記念として
轡田隆史 会員	1.5万円	年次晩餐会時の寄付
佐野忠則 会員	50万円	法人運営費用として
佐藤 守 会員	10万円	法人運営費用として
吉川正幸 会員	6万円	法人運営費用として
山田和人 会員	5万円	法人運営費用として

しかし、後年の遺物の再整理段階で、研究者泣かせのものもある。金属部分のみが残る有機質箇所が劣化消滅し、何に使われたのかが不明な遺物だ。例として馬具が拳げられ、とても興味深かった。

ガウランドは元々考古学への興味はさほどなかったようだ。来日の翌年、考古学上の一大事件(日本の江田船山古墳から豪族の名が彫られた刀剣が出土、西欧ではシユリーマンによりトロイヘイリオス)の遺跡発見)がきっかけとなり、俄然古墳発掘に傾斜していった。科学的手法をとりつつ、一方では『日本書紀』への関心を高め、

重層的に「古代を科学し、追求するおもしろさ」を見出していったという。神武天皇陵の強い否定などはその表れとされる。

日本で貨幣製造の業績をたたえられたガウランドは、明治21年に帰英し、考古学者としてストーンヘンジの第1回発掘調査監督に選ばれた。そして、日本で発掘した技術で発掘・修復に見事成功、賞賛された。他方、化学者として金属製造の歴史についての論文を発表、大学の講師にも就いている。

エネルギーシユで才能にあふれるガウランドだが、残念なのは当時の日本人にその研究成果や手法を直接伝えていない。前出の明治大学・大塚名誉教授は、伝達されていれば日本の古墳研究・調査はもっと早くに進歩・発展していただろうという。

登山活動でも「伝達」精神はあまり発揮されなかった。自身による詳細な行動記録はまったくなく、ほとんどは同行の仲間たちが寄稿したものに限られる。

自ら記録・紀行を発表していれば、私たち登山者にはもっと身近な存在だったに違いない。裏を返せばここにまだガウランドの研究余地

は多く残されている、ともいえる。
(登山関連の記述は、登山史家・布川欣一氏にご意見を伺いました)

マナスルの呼び聲!!

―たずねうたに会えました―

高村奉樹

「山」830号に掲載された私の「たずねうた―マナスル讃歌―」について、会員の岡久様から7月末に早速手紙が届きました。

「小生、山岳文化学会にも所属して(昭和時代の山と歌謡曲)について調べているのですが、『マナスルの呼び聲』というSP盤レコード(ビクター発売)を所蔵しており、それがおたずねの歌だと存じます」。まさにこれでした。さらに「この歌は、1954年毎日新聞社制作の映画『白き神々の座』の主題歌(竹節作太・佐伯孝夫作詞、加藤光男作編曲)で、当時の流行歌手・灰田勝彦が歌っています」。歌われてすでに60年を経たというのに、当時も知らなかった背景の説明とともに、レコード会社のヒットアルバムリストと歌詞のパンフレットが、さらにお願いでCDを送っていただきました。早速60年ぶり

に聴くメロディーはまさにヒマラヤからのこだま、深く感動を覚えました。

なお、上記ヒットアルバムには、私たちにはなつかしい『新雪』『アルプスの牧場』などがあり、『マナスル』のB面は『シェルパ可愛い』です。この歌が上記の2つほどにはポピュラーでなかったことは確かで、いずれも中岡様も危惧されるように、内容的にちよつとと思われるふしもあります。ここでは拙文に記しましたうる覚えの讃歌の、正しい一番の歌詞だけ紹介します。

おいらはシェルパ、ヒマラヤの水のお城の申し子だ
氷河の水で、自慢ぢやないが
産湯つかった伊達男

カンチ、マカルー、マナスルが早くおいでと呼んでゐる
「産湯つかった」も確かにありましたが、途中はずいぶん省略記憶していたものです。

さて、この歌の作詞者に竹節作太さんの名があることに驚きました。戦前の立教大学ナンダコット遠征への参加をはじめ、山やスキーで豊富な経験を持つ毎日新聞社の記者として知られ、日本山岳会

マナスル登山については1952年、今西錦司さんたちの踏査隊に途中参加、次いで53、54年の二次にわたって本隊に参加されました。彼が現地の経験と印象に基づいて作った歌詞を、専門家の佐伯孝夫氏が協力して仕上げられたものと思われまふ。一昨年のエベレスト周辺フライトの折に、私の眼がマカルー、マナスルに吸い寄せられたのも、耳の奥に残るこの歌のせいでした。

『白き神々の座』は封切り映画館で見ましたが、サマでの地元住民とのトラブルの場面は印象に残っています。そのBGMについてはまったく記憶がありません。

以上のことをすぐに「山」で報告しようと思う一方で、歌にまつわる思い出やエピソードなど、さらにこだまは届かないかと待つうちに今日に至りました。

なお私の属する(社)京大土山岳会は、京都大学附属博物館の協力を得て、1931年の創設からの活動を整理して、アーカイブスの作成に努めています。その経験から、中岡様が、昭和時代の「山と歌」について個人的に調査、収集をされることに敬意を表し、一度だ

け聴いた歌が、私のぞらみみでなかつたことを示す、確かなこだまを返してください。心に心からお礼を申し上げます。

山のつれづれ句歌

小原茂延

山歩きを続けてきて、折に触れ、そのときどきの情景や感慨を書き留めるのは、絵画や写真にも似た心象を表す行為なのだろう。

若いときから名句や短歌を読むのが好きで『現代詩歌集』といった本を繙き、飯田蛇笏、若山牧水、窪田空穂といった自然詠の素晴らしさに感銘を受けたものだ。

中高年になって、拙いながらも山旅のつれづれに言葉をつないでみたうち、活字になったものが以下の句歌である。「山」の831号に東西南北欄へのエッセイ、詩歌の投稿案内が載ったので、忸怩たるものがあるが、山同様、同好の士への呼び水との思いである。

雪溪の流れ明るき立金花

岩手の焼石岳は尾瀬の湿原と異なり、登るほどに水芭蕉とリュウキンカが続き、ガスった中の水芭蕉は雪溪と一緒にモノトーン、リ

ユウキンカの黄色が明るかった。突元と霞の中の榛名かな

春霞に浮かんだのどかな峰々

乱れ咲く黄菅風露や霧ヶ峰

昨今と違つて霧ヶ峰のニッコウキスゲは乱れ咲いていた。フウロは健気で、シモツケも鮮やかだった。

薄日さす妙義の秋に染まりけり
岩峰を彩る紅葉、「大」の字から眺めた妙義山の錦繡。

俳句は十七文字という最小の詩であり、省略に徹する難しさがあふ。短歌は三十一文字なので多少ものを折り込めるような気がするが、初心者ゆえの浅慮だろう。

六月の穂高にひびく山の唄
ウエストン祭の老若の声

数年前、上高地に行ったことがないという方を案内して訪れた。信濃支部のかつての山乙女はお元気で、「山は人格をつくる」との感を持つた。地元生徒の澁刺たる歌声、指揮の若き女教師、取り巻く中高年の山男、山女、合唱は6月の山々にこだました。

かつて覇を競ひし友の逝き行くを知らば悲しも山がはの音
青壮年のころは仕事に明け暮れ、山も中断せざるを得なかつた。そ

れでも自然界との接点がある職であったのは救いであった。とは言っても、人並みに己の器量を問いたい気持ちは誰しもある。そんな一時代が終わって、職を辞して10年余、1人また1人と訃報が入る。武州の山路をたどり、溪流を下る。水音に聴き入りながら、「山波を越え行くとはい人生に他ならな

い」といみじくも記した、医学博士である鈴木知準先生の慧眼に思い至った。



活動報告

日本山岳会の各委員会、同好会の活動報告です。

集委会員会

赤倉温泉スキー懇親会

1月18日〜20日、集委会員会主催のスキー懇親会が新赤倉スキー場で行なわれたので、昨年の安比高原に続き参加した。参加者は21名、場所は信越線で長野から新潟県に入った妙高高原の赤倉である。18日(日)、車や列車で次々とホテルに集まり、十数名になったところで、宿の車でスキー場へ向かう。天気も良く、講習を兼ねてグ

ループで滑る人たち、この人たちは?歳と年齢を感じさせず休むことを知らないようなまったりタフな人たちに混じり、なんとかついて行くことができ、今日1日を楽しく滑ることができた。妙高山の頂上近辺を忙しくヘリコプターが飛んでいたが、昨日、天候不順の中をバックカントリーへ出かけた人たちが遭難したらしく、それを搜索するヘリコプターだったようだが、無事に収容できたようだ。15時過ぎに下山するころ、西の



ホテル前での記念撮影

焼山方面に高く噴煙が上がっているのを認めたので、妙高山が爆発かと一瞬驚いたが、ここ赤倉温泉の源泉の噴煙と分かり、安心。

夕食時に、自己紹介を兼ねて各自が話をしたが、平均年齢74歳(66〜89歳)とのことである。いろいろな人、考え方が聞け、私としては大変有意義であった。

19日(月)は終日風雪。ゲレンデは空いているものの、横殴りの雪で、ゴーグルは直ぐに見えなくなるし、外せば目が痛く、新雪で足元は重い、なんとかスキーを楽しむことができる。

昼食で新赤倉観光ホテルのレストランに入ると、日本人のパーテ

イは我々だけ。ほかには北部欧州人(長身、青目、緑目、金髪、ブロード多種多様)やオーストラリア人(子どもたちが夏休み)がほとんどだ。2日目の夕食は、洋食のフルコース(ピフテキ付き)で、ワインもおいしく結構でした。

20日(火)午前9時に記念写真を撮り、その後解散。この日も前日と同じような風雪だ。記念写真撮影後この天候に見切りをつけ、さつさと帰る人もいたが、私はゴンドラで2回ほど滑り、早めに引き上げて、1人でゆっくり宿の風呂を堪能し、今回のスキー懇親会を終了したのである。(立石達治)

図書委員会

図書交換会報告

松方三郎氏の提案で、図書交換会が初めて開催されたのは1968年のことである。そのときの図書委員長が深田久弥氏、そして図書委員には山崎安治氏らが名を連ねた。それこそ山岳書の黄金期のことである。

その図書交換会を14年ぶりに復活させたのが2007年のこと。そして、ずっとルームで開催して



ずらりと並んだ山岳図書

いたその会場を、年次晩餐会に移して3年目になる。

第32回となる今回の図書交換会は、昨年にも増して多くの会員の参加があり、350冊の出品本をほとんど完売し、残本は10冊のみという嬉しい結果となった。

人気本を紹介しよう。一番人気は、20人が申し込んだ『不撓不屈の岳人 加藤文太郎の追憶』。『日本の岳人たち』15人、『山岳遍歴』14人、『山は屋上より』13人が後に続いた。入札本は『穂高の岩場1・2』に5000円、『秘密之國西藏遊記』4250円、『ヒマラヤの旅』に5000円の値がついた。

また今回は、思いもかけないサプライズがあった。近藤等名誉会員から「参加者の皆さんに無料で差し上げてください」と80点近い本が送られてきたのだ。箱を開けてびっくり、『星と嵐』『星にのぼされたザイル』『天と地の間に』のDVDも。なんとも嬉しい大抽選会になり、本家の図書交換会以上に盛り上がる一幕も。また今年も、静岡支部の長田義則会員からみかんの差入れがあり、参加者みんなで美味しくいただいた。

正直なところ図書委員会としては、ルームでごちんまりと開く方が楽なのだが、並んだ本を實際に目にして手に取る醍醐味を多くの会員に味わってほしいと、委員が一丸となって年次晩餐会にあたっている。また、古い本たちが豪華なテーブルに並べてもらって、なんとも誇らしげで嬉しそうなのだ。

今年も年次晩餐会で図書交換会を開催します。夏前には会報で出品本を募る予定にしています。書棚に「図書交換会に出たい」と言っている本はありませんか。今からチェックをよろしく願います。

(三好まさ子)

支部



全国各地の支部から、それぞれの活動状況を、北から南へとレポートします。

秋田支部

秋田支部設立55周年記念 祝賀会報告

秋田支部は1959年6月に設立、本年度で55周年を迎え、その記念祝賀会が11月15日、秋田ビューホテルで午後1時から開催。会場には、支部の歴史となる設立当時の会山行、周年記念事業、分水嶺踏査、訪台、訪韓等の写真が賑やかに展示された。祝賀会の講演は、山川博先生の「高齢者の健康と登山」、佐々木民秀顧問の「太平山四方山話」であった。

祝宴は、富山流尺八師範・藤田新山さんの尺八演奏で、めでたい音曲「鶴の巢籠」の演奏後、支部物故会員への黙祷が行なわれた。

続いて今野支部長から、多くの困難を克服して秋田支部を現在まで発展させてこられた諸先輩の方々への感謝と、55周年記念事業

の報告があり、県内の山・55座に登頂する55座ラリー、県内標高55番目の秋田駒ヶ岳・横長根山行。県外山行は、長野方面の黒姫山、戸隠山、飯縄山など。そして、公益的的事业では太平山市民登山への協力、前岳への案内標識やベンチの設置、歩道の下刈りなどを今年も実施し、登山者にも大変喜ばれているとのこと。また、会員おひとりおひとりのかけがえのない人生をより豊かに楽しくし、支部発展のためにも、今後も一層のご協力をお願いする、との挨拶があった。

長岩名誉顧問からは、支部設立以来の初代荒巻支部長はじめ歴代の支部長への感謝と、支部の発展に力を尽くし、物故者となった方々への哀悼、そして、会報が5号で途切れていたが、3代目岡田支部長が16年ぶりに「秋田山岳」と名称を変えて発行、さらに佐々木前支部長や事務局の努力で今日ま



祝意を述べる長岩名誉顧問と会場風景

で継続され、94号までが会員に届けられ、それが登山の道しるべとなっている。「山の日」も制定され、山への関心も深まると思う。これからも今野支部長の下、会員相互の意欲と団結で「日本山岳会秋田支部」を盛り上げて、若い人たちの山への憧れを育んでくれることを希望している、との祝辞をいただいた。

新永年会員2名(大山孝一会員欠席)に記念品の贈呈が行なわれ、佐々木民秀新永年会員から、50年前入会したとき、荒巻支部長に挨拶に伺ったら、「君、事務所を手伝ってくれ」の一言で、それから支部の委員、事務局長、支部長と50年間支部の運営に携わってきた。こ

れも、その時代時代の会員のご協力のお陰、との謝辞があった。

支部設立55周年を祝い、これまでの役員の方々のご苦勞をねぎらい、支部の益々の発展を祈念するとの、安藤名誉顧問の力強い乾杯の発声で懇親会が始まった。

新入会員の澤田石一夫、佐藤英實両会員が紹介され、会は楽しく和やかに、会員同士の親交を深めた。余興は、堀井副支部長のハーモニカと尺八の合奏で「雪山賛歌」や、紙芝居に合わせて「ふるさと」などを合唱。また、「秋田県民歌」にまつわる心温まるエピソードを奥村会員が話されてから、全員での大合唱。最後に、堀井副支部長(祝賀会実行委員長)の三本締めで、祝賀会は午後6時ごろ、無事に閉会となった。(鈴木裕子)

越後支部

平成26年度越後支部 年次晚餐会を開催

12月13日(土)に平成26年度越後支部年次晚餐会が、新潟市の東映ホテルで盛大に開催された。毎年12月第2土曜日が越後支部恒例の支部晚餐会開催日であるが、この



盛大に開催された越後支部年次晚餐会

日は新潟県全域に大雪注意報が発令された悪天候にもかかわらず、78名の支部会員の参加があった。

14時より桐生恒治事務局長の司会進行で開式宣言、この1年で鬼籍に入られた支部会員5名(藤井信氏、小野健氏、橋立直保氏、荒井辰彌氏、伊藤敏男氏)に黙祷を捧げた。次に12月7日の本年年次晚餐会で永年会員表彰を受けた越後支部会員3名(河村勝氏、平田大六

氏、山口寿澄氏)を紹介し、橋本正巳支部長の開会挨拶、阿部信一新潟県山岳協会会長から祝辞をいただいた。

第1部記念講演では、支部会員から2つのテーマについて講演をしていただいた。最初に尾瀬財団評議員であり尾瀬ガイド協会新潟支部長でもある櫻井昭吉会員から「尾瀬について」と題し、尾瀬を取り巻く環境保護の実態と活動組織について語っていただいた。次に新潟県警山岳遭難救助隊として長年活躍され、救助技術指導官として後進の指導育成に携わっている玉木大二朗会員による「本年の新潟県山岳遭難の発生状況と遭難事例」と題した講演は、旅行的なツアー登山によりチームワークを無視した安易な遭難事例が多いなど、非常にショッキングなお話であった。

第2部の晚餐会開宴前に、越後支部会員の叙勲・褒章・表彰関係者の紹介を行なった。渡辺欣次会員が昨年度瑞宝双光章を受章されていたこと知り、今回お祝いさせていただいたが、県内小学校長やインド・ニューデリー日本人学校長などの教育行政に尽力された功績である。七澤恭四郎会員の藍綬

褒章は、多年にわたる自然公園指導員として環境保護を周到綿密に遂行された功績であったこと。櫻井昭吉会員の環境大臣賞受賞は、尾瀬国立公園を中心に登山道の整備、利用者への自然解説・安全指導など自然とのふれあい活動に尽力された功績について紹介した。3氏がこれらの栄誉に輝いたことは、越後支部としても大変光栄なる慶事としてお祝いできる、記念すべき晩餐会となった。

次に、土田幸雄越後支部名誉会員から、祝宴の乾杯の音頭を取っていただいた。午前中に開催された役員会の内容について触れていただき、来年は日本山岳会の110周年となるが、再来年の2016年には越後支部創立70周年であること、さらに全国支部懇談会を越後支部で開催することが決定しているなど、今後の支部会員の協力と結束をお願いしたい、とアピールしていただいた。

懇親・懇談が続くなか、今年度越後支部の仲間に加わった編入会員1名と新入会員7名がステージに上り自己紹介を行なった。しかし越後支部では、会員の年齢高齢化と支部会員減少の問題に直面し

ており、新入会員勧誘運動を強力に推進していく必要があること。支部活性化の今後の取り組みとして、今年度設立したスノートレッキング同好会(田邊信行代表)とフォト・スケッチ同好会(本間一人代表)を紹介し、活動内容などを説明した。さらに事務局より、来年度から同好会計画とジョイントする形で、支部会員が気軽に参加できる魅力ある山行や集会などを計画していくことなど、越後支部活性化の起爆剤を投げかける取り組みを実施するなどの方針説明があった。

越後支部年次晩餐会は、新潟県内の多くの会員とともに、秋田県、山形県、福島県、埼玉県などの県外会員も一堂に会しており、サロンの場として山談義が最高潮に盛り上がり、時間の過ぎることを忘れてしまう。中締めは遠藤家之進正和副支部長の万歳三唱で、成功裏に終了することができた。

(桐生恒治)

東九州支部 スズタケ枯死とシカの食害調査

昨年10月4日(土)、大分県植物

研究会との共同作業によるスズタケ枯死とシカの食害調査が、本谷山西の稜線で行なわれた。一昨年6月1日(土)の1回目調査以来、10月と6月の年2回の観測調査は今回で4度目の作業である。

一昨年10月の作業時と同じであったが、この日も稜線の北側から絶えず冷たい風が吹きつける寒い一日となったが、昨年は雨交じりの寒風だったのに比べて今回は薄曇りの天気であったのが救いである。

午前7時、緒方町の「道の駅原尻の滝」に集合したのは、東九州支部会員会友9名、研究会メンバーも9名で、7台の車に分乗して尾平トンネル宮崎側の登山口に移動。



悪天中行なわれた調査

8時30分に登山開始で、約30分で尾平越の峠の稜線に着く。ここで定点観測組と、移動調査組とに分かれる。定点観測組は峠から約1.5km、1時間半の所に県環境企画課が設置した観測地点へ直行。ここで、ネットで囲われた中のスズタケの状況と、囲われていない場所の状況を計測する作業。計測するまでもなく、シカの食害は一目瞭然であるが、それを数値的に記録する作業である。

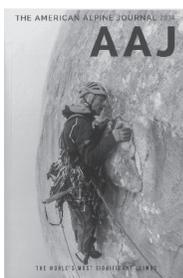
一方移動調査組は、今回は峠から本谷山山頂までの稜線上の、幅20mほどの間の樹木の樹皮に残っているシカの喰い跡調査だ。多くの樹木の樹皮に喰い跡が残っているが、その喰い跡の古いものと新しいものに分類し、樹木の直径の大きさを分類し、さらに樹木の種別別に分類しながらその数を記録する。特に目につくのはヒメシヤラやナツツバキ、リョウブなどの樹木がほとんどかじられていたのが目につく。峠から本谷山までの約3.3kmを計測し、記録し終えたのが12時過ぎだ。昼食後下山開始、途中で定点観測地で作業終了組と合流して午後3時前に下山し、この日の作業を終了した。(飯田勝之)



図書紹介

アメリカ山岳会編

The American Alpine Journal
2014



2014年
The American Alpine Club
A5変型判 400頁
定価 4052円

目次と概要を記すとー

1. アンナプルナ主峰南壁新ルート・ソロ初登攀
 2. アラスカ、ムーアの歯峰東面初登攀
 3. キンヤンのキッシュ東峰初登頂
 4. K6西峰初登頂
 5. ミャンマー、ガムラン・ラジ初登頂
 6. カンチエンジュンガ山塊タルン峰北西壁初登攀
 7. 人里離れたアメリカの岩登り
 8. ネパール、ロールワリン山群ルナ西峰初登頂
 9. チリ、フエゴ島最高峰・サルミエント峰北面初登攀の報告が圧倒されるようなそれぞれの写真とともに掲載されている。
- 中でも注目アンナプルナ南壁

新ルート・ソロ初登攀だ。太陽が照り始めると気温が上がって雪崩の危険性が高まるので、昼間はクレバス内の安全地帯で睡眠を取り、暗くなり気温が下がって雪崩の危険が少なくなってきたから登攀を継続している。ヘッドライトが照らし出すルートに集中し、この方が安全に登れると言う。筆者のようにヘッドライトを点して早朝暗いうちに岩場の取付点までアプローチし、夜明けとともに登攀を開始した者にとつては驚きだが、安全確保の観点から納得もいく。この原稿を執筆中、朝日新聞が「19日かけてヨセミテのエル・キャピタンを素手で登ったクライマーが昼間は岩が熱くなり、汗をかいた手が滑って落下する可能性もあるので主に夜間に登った」と報じていた。偶然とはいえ夜間登攀のメリットを再認識した。

続いて、未開地域として前述のチリ、フエゴ島サルミエント峰と大

きな可能性を秘めたアメリカ、ホイトニー山域の現状紹介がある。本誌の圧巻はなんとといっても261ページを費やし、ヒマラヤ、アンデス、アルプス、東欧、極地を含め中東の砂漠、アフリカ、アジア各地のジャングル奥地の高峰も網羅した2014年の世界全域での初登頂・初登攀の情報と写真だ。それぞれの報告書の最後にアイコンが並び、これで検索すると(1)報告書の全文、(2)追加の写真、(3)地図や地形図、(4)ビデオほかを見ることが出来る。内容は何百ページにも広がり、読者にとって楽しみは尽きない。

邦人の報告も散見できるが、情報網の発達した今日、このような通年登山実績を集積した情報誌への情報提供が遅れると、初登頂や初登攀の情報といえども人目に曝される機会を失う恐れがある。貴重な報告書は素早く関係者に手渡すようお勧めする。

本誌はアメリカ山岳会の機関誌だが、追悼やクラブ活動は簡潔に記され、一山岳会誌を超越した世界の登山情報誌に徹している印象が強い(編集責任者=Dougald Mac Donald)。(南井英弘)

図書受入報告(2015年1月)

編著者	書名	ページ/サイズ	発行元	刊行年	寄贈/購入別
斎藤一男	山 その日この人 (上巻)	417p/19cm	論創社	2015	出版社寄贈
斎藤一男	山 その日この人 (下巻)	336p/19cm	論創社	2015	出版社寄贈
辰野勇	軌跡	266p/22cm	ネイチュアエンタープライズ	2014	出版社寄贈
日本秘湯を守る会(監修)	秘湯・名湯めぐりの山旅ガイド [全国版] : いい山 いい宿 いい温泉	224p/21cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
藤原咲子	チャキの償い : 新田次郎、藤原ていの娘に生まれて	222p/20cm	山と溪谷社	2015	出版社寄贈
Pauler, Gerda	Great Himalaya Trail : 1,700 Kilometers Across The Roof of The World	218p/24cm	Baton Wicks	2013	購入
Roberts, David	Alone on The Ice	368p/24cm	Norton	2013	購入
Hawkins, Stewart	Far, Far The Distant Peak	334p/24cm	Curbans Books	2014	購入
Batoux, Philippe	Mont Blanc : The Finest Routes Rock, Snow, Ice and Mixed	216p/29cm	Vertebrate Pub.	2012	購入
Fukada, K.(著) Hood, M.(訳)	One Hundred Mountains of Japan (「日本百名山」英訳版)	247p/24cm	University of Hawaii	2015	購入

INFORMATION 創立110周年記念事業

日本三百名山登頂シリーズ①
日光・太郎山と足尾・袈裟丸山
1泊2日 参加者募集!

昨夏刊行されました『新版 日本三百名山登山ガイド』の発売と日本山岳会創立110周年を記念して「日本三百名山登頂シリーズ」という山行企画を、長期にわたってスタートさせます。三百名山の内、原則として百名山を除く二百名山から、1回につき2〜3山を選んで企画します。JAC会員以外の方も参加できますので、山仲間やご家族などお誘い合わせの上奮ってご参加ください。本企画の特徴は、

*日本山岳ガイド協会のガイド資格を有するツアーリーダーが2名(最少催行人数15名の場合)同行します。

*インタープリター(解説員)として当該山域に精通しているJAC支部会員(第1回の場合は栃木支部)が、また、サポーターとして本部集委会スタッフそれぞれ1名同行します。

*ツアーの企画・実施は、登山・トレッキングツアーに実績があり、信頼できる2つの専門旅行社、アルパインツアーサービスとアトラストレックが交互に担当します。

【第1回日程・行程など】

期間 5月23日(土)〜24日(日)

集合時間 新宿駅西口スバルビル

前6時50分(マイクロボス利用)

行程 1日目 新宿⇨東北道・日光道經由⇨光徳牧場―山王帽子

山―太郎山―裏男体林道⇨草木湖畔/サンレイク草木泊(予定)

2日目 宿泊地⇨折場登山口―

賽ノ河原―小丸山―袈裟丸山―

折場登山口⇨北関東道・東北道

經由⇨新宿20〜22時解散予定

食事 朝1回、昼1回、夕1回(1

日目の昼食は各自、行動食をご

持参ください)

参加費 40,000円

定員 20名(最少催行人数15名)

申込み・問合せ 〒105-0003 東京都港

区西新橋2-8-11 第七東洋海

事ビル4F アルパインツアー

サービス(株)

TEL 03-3503-0223

FAX 03-3508-2529

日本山岳会創立110周年記念・日本三百名山登頂シリーズ
念まで。担当⇨椋山(すぎやま)、
兎玉 info@alpine-tour.com
*お申込みの方に詳細な案内をお送りします。

【今後の予定】

②7月下旬 志賀高原・笠ヶ岳と

岩菅山、白砂山2泊3日(担当⇨アル

パイン) ③8月上旬 南アルプ

ス・策ヶ岳2泊3日(担当⇨アト

ラス) ④9月上旬 南アルプス・

鋸岳1泊2日(担当⇨アトラス) ⑤

10月上旬 九州・脊振山と多良岳、

普賢岳2泊3日(担当⇨アルパイ

ン) ⑥11月上旬 浅間隠山と榛名

山・相馬山、荒船山2泊3日(担当

⇨アトラス)

*2回目以降は予定です。実施の

2ヶ月前に詳細を会報「山」でお知

らせします。

*そのほか海外ツアー企画として

ブータンやネパールの「グレート・

ヒマラヤ・トレイル」の一部を探

訪するツアーを検討中です。逐次、

会報「山」で発表しますので、ご期

待ください。

(創立110周年記念事業実行委員会)

Climbing&Medicine・66



登山と温泉のすすめ

村上和子

山がある所にはたいてい温泉があります。日帰りでも、長期縦走などのハードな登山の後でも、最後に温泉に入るのは格別、至福の時間ではないでしょうか？ 特に冬山登山を終え、雪の降る中の露天風呂に浸かるといふのは、想像しただけでも本当に格別な幸せを感じることでしょう。

下山直後では、筋肉の疲れや長時間緊張の精神的疲労、その他汚れなどの物理的ストレスが温泉で一気に解消されます。もちろん、温泉ではなく普通の銭湯でも効果はありますが、やはり山には温泉がつきもの、その山独自の温泉に浸かりたいものです。温泉には、単純温泉、塩類泉、特殊成分を含む療養泉と大きく3つに分けることができます。そして、物理効果には温熱効果、天然マッサージの水圧効果、体が軽くなる浮力効果があります。薬理効果は、温泉成分、泉質で違いがあります。温泉には必ず温泉分析表が貼ってあります。温泉分析表と聞くと難しく思えますが、これは温泉のプロフィールですから、読むことをお勧めします。

温泉の効果は、熱い温泉では自律神経の「交感神経」を優位にするので、体を休めるには不向きです。筋肉の疲れや緊張をほぐすには、泉温40℃前後が末梢血管を拡張し温熱効果を発揮します。この温度が筋肉疲労や心身ともに安

らぎを与えます。

日本人が最も気持ちが良いと感じる泉温は42℃とされていますが、37℃～40℃位の温いお風呂は体の内外から温める温熱効果ですが、42℃以上のお風呂は肉を温めるという外側からの効果になります。次に温泉特有の泉質のポイントをあげておきます。単純温泉…リラックス、炭酸水素塩泉…肌の汚れや古い角質を落とす、硫化塩泉…肌をしっとりさせる・乾燥を防ぐ、硫酸泉…血行促進、酸性泉…殺菌・活性、などで、山でのちょっとした怪我などの殺菌効果は、弱酸性～酸性泉が適しています。

また、温泉では上記の作用だけでなく、ヒートショックプロテインを増加させるという効果もあるようです。ヒートショックプロテインとは熱ストレスによって増産されるたんぱく質で、傷んだ細胞を修復する働きを持ち、免疫細胞の働きを強化、肉体疲労の軽減、生体機能アップなど様々な効果が文献に並んでいます。これは山行の疲労的精神的回復だけではなく、疾病の元を断ち切る可能性があるということです。また、近年ガンの温熱療法でも注目されています。このヒートショックプロテインを増やす入浴法は、さら湯では40℃20分、41℃15分、42℃10分の入浴時間なのですが、温泉では、40℃15分、41℃10分、42℃5分と入浴時間を短縮できます。なので、1クール、2クール、3クールと簡単に分割湯ができるのです。老後に温泉巡りを楽しむということが長寿の秘訣と言われていますが、このことを考えると理解できると思えます。

登山と温泉の勧め。これは山行時のその場だけの効果ではなく、根本的な自分の体の細胞も修復できる。一石二鳥ならぬ一石三鳥かもしれません。

過去のコラムは次の手順でご覧になれます。ご活用ください。

日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→医療委員会 <http://jac.or.jp/info/iinkai/iinkai.html>



平成26年度第9回(1月度)理事会 議事録

日時 平成27年1月14日(水)19時00分～20時50分

場所 日本山岳会集会室

【出席者】森会長、節田・黒川・古

野各副会長、高原・吉川・

佐藤各常務理事、勝山・山

田・野口・大槻・落合・川

瀬・山賀・直江各理事、浜

崎監事

【欠席者】吉永監事

議事に先立ち、会長から「現執行部体制は余すところ6ヶ月となった。課題を着実に解決していきたいので協力願いたい」との挨拶があった。また、来日中の韓国在住の曹東植(チョウドンシク)会長(14466)から挨拶があった。

【審議事項】

1・「ガンガプルナ北稜登山隊2015」の110周年記念事業と

しての位置付けおよび同登山隊の募金開始の承認について(会長)

「ガンガプルナ北稜登山隊2015」から、同登山を日本山岳会110周年記念事業として実施することおよび募金(対象を限定したものを)を行なうことについて承認申請があった。別添資料により審議した結果、1月16日に開催予定の110周年記念事業実行委員会において、同計画が承認された場合は、これを追認することとした。なお、今回の登山ルートは難易度が高く危険度が高いことから、問題視する意見があった。(賛成14棄権1で承認)

2・入会希望者承認について(会長)

17名の入会について別添資料により審議した結果、16名について入会を承認し、1名は保留とした。(賛成15、反対なしで承認)

【協議事項】

1・「C-2 理事会運営規程」の改正および「C-27 理事職務権限規程」の制定について(高原、吉川)

本会の理事および業務執行理事の権限等に関して、「理事會運営規程」の一部を改正するとともに「理事職務権限規程」を制定することについて別添資料により協議し、次回の理事会で審議することとした。

2・規程類の管理責任者の改正について(高原)

規程類の管理責任者に関し、実態に即していない部分を改正することについて別添資料により協議した。

3・次期人事について(森)

標記について協議した。

【報告事項】

1・サントリー食品インターナショナル(株)から、同社南アルプス白州工場において展示するW・ウェストンの肖像写真の貸出依頼があり許可した。(節田)

2・(公社)日本山岳ガイド協会から「安全のための知識と技術公開講座」への後援名義使用について申請があり、これを承認した。(高

原

3・東京多摩支部から、支部旗へのロゴマーク使用申請があり許可した。(高原)

4・会員増強・財政基盤検討PTにおける検討状況について、別添資料のとおり報告があった。(黒川)

5・「日本山岳会の財政問題」について別添資料により説明があり、「山」2月号に掲載する旨の報告があった。(吉川)

6・助成金および寄付募金各1件の事前申請および寄付金7件の受け入れ報告が、別添資料によりあった。(吉川)

7・全国「山の日」協議会から、「全国『山の日』フォーラム」を東京国際フォーラムで、平成27年3月28日～29日に開催する旨の案内があった。(山賀)

8・平成26年度下期の海外登山助成対象登山隊の申し込みが2隊からあった。(古野)

9・遭難対策委員会より、12月度の登山計画書の提出状況(17件あり、内訳は支部15件、委員会2件)の報告があった。(川瀬)

10・平成26年1月～6月末までの日程計画について報告があった。

(高原)
11・「山」1月号発行について報告があった。(節田)

【連絡事項】

- 1・静岡森林管理署長からの富士山国有林内のニホンジカ捕獲について
- 2・日本山岳遺産基金からの通信N O 8

【今後の予定】

- 1・平成27年度事業計画書・予算書提出期限(各支部、各委員会) 1月15日
- 2・平成26年度事業報告書・会計報告書提出依頼(各支部、各委員会) 1月26日
- 3・平成26年度事業報告書提出期限(各支部、各委員会) 2月27日
- 4・第1回J A C説明会 2月27日(高原)
- 5・平成26年度会計報告書提出期限(各支部、各委員会) 3月31日
- 6・平成27年度支部合同会議 9月26日(土)～27日(日)以上

平成26年度第10回(2月度)理事会
案内
日時 平成27年2月12日(木)19時よ

ル
ー
ム
目
誌
1
月

り
場所 日本山岳会集会所
議題 1・「C」2理事会運営規程の改正および「C」27理事職務権限規程」の制定について
2・入会希望者承認について
3・その他

- | | |
|-----|---|
| 6日 | 図書委員会 スケッチクラブ |
| 7日 | 常務理事会 集会委員会
YOUTH CLUB |
| 8日 | 自然保護委員会 フォトビ
デオクラブ 山岳地理ク
ラブ バックカントリークラブ |
| 13日 | 山岳研究所運営委員会 学
生部 九五会 |
| 14日 | 理事会 休山会 スキーク
ラブ |
| 15日 | 学生部 みちのり山の会 |
| 16日 | 110周年記念事業実行P
T 山の自然学研究会 |
| 19日 | 総務委員会 資料映像委員
会
スケッチクラブ |
| 20日 | 支部事業委員会 00会 ス
キークラブ |
| 21日 | 三水会 青年部 つくも会 |

- | | |
|-----|---|
| 22日 | 学生部 海外委員会 公益
法人運営委員会 フォト
ビデオクラブ 山遊会 |
| 23日 | 海外登山基金審査委員会
YOUTH CLUB
フォトビデオクラブ |
| 26日 | 自然保護委員会 YOUT
H CLUB |
| 27日 | デジタルメディア委員会 |
| 28日 | 麗山会 |
| 29日 | 集会委員会 会員増強・財
政基盤検討PT 緑爽会 |
| 31日 | 土曜会
1月来室者 411名 |

会員異動(1月分)

- 物故
- | | |
|-------------|----------|
| 滝澤信三(4575) | 14・12・16 |
| 高木泰夫(5615) | 15・1・22 |
| 笠間嘉孝(9508) | 15・1・1 |
| 栗村明信(10110) | 15・1・5 |
- 退会
- | | |
|--------------|-----|
| 篠島 弘(7069) | 北海道 |
| 牧野 牧夫(7962) | 越後 |
| 川木 竹良(8713) | 関西 |
| 池田 悟(11444) | |
| 山本 守(11895) | 北九州 |
| 淀川 雅之(12989) | 福岡 |
| 松本 廣文(13158) | |
| 原田 邦彦(14036) | 埼玉 |

INFORMATION

◆中村保氏講演会「東チベット」
東・西エリアの紹介
海外委員会・チベット勉強会
東チベット地域の探検、研究の第一人者であり、英国王立地理学会をはじめとして各国山岳会からその業績に対して多くの賞を授与

ATIN

された、中村保氏を講師に招いてご講演をいただきます。今回は、東チベットについて2回の講演を開催します。

第1回は3月7日に「東チベット・西エリア」、第2回は6月6日に「東チベット・東エリア」。講演

会の終了後には懇親会を予定。会
員以外の方の参加も大歓迎です。
講師 中村保氏 東チベット探検
家・日本山岳会会員

日程 3月7日(土)・6月6日(土)
時間 14～16時
場所 日本山岳会 104号室

(<http://jac.or.jp/info/jac/annaichiu.html>)

参加費 1000円(講演500
円、懇親会500円)

定員 40名 先着順(会員以外の方
も参加できます)

主催 公益社団法人日本山岳会
海外委員会

問合せ・申込み 担当 田口憲司
✉ kitajapanikt@yahoo.co.jp

◆井上靖文学館「第2回 文学展 講座」

『あした来る人』のモデル 登山
家・加藤泰安をかたる

日時 3月22日(日) 13～14時
場所 井上靖文学館

講師 羽賀孝郎(元日本山岳会副
会長)

定員 20名
費用 入館料を含む500円

4月20日(月)まで『あした来る
人』から『氷壁』へ。展を開催。

井上靖文学館 〒411-0931静岡県長
泉町東野クレマチスの丘5151
57 TEL 0555-986-1771

◆四国支部の第31回全国支部懇談 会、第3回小島烏水祭のご案内

四国支部は4月11日(土)、12日(日)
に香川県高松市内で「第31回全国
支部懇談会」および「第3回小島烏
水祭」を同時開催いたします。主な
内容は以下のとおりです。参加希
望の方は担当までご連絡ください。
11日(土)

10時20分から高松市の峰山公園
(JR高松駅から15分)で小島烏水
祭。記念植樹、碑前献花、詩吟、合
唱をします。閉会后、公園内で四
国支部による「さぬきうどん」のご
接待があります。13時30分からホ
テル「花樹海」(峰山公園中腹)で
全国支部懇談会を開きます。

講演会「小島烏水 高松と江戸」
(講師 平井宥慶・小島家菩提寺
住職)、「四国の山はなぜ美しい」
をテーマにしたスライドショーと
四国支部会員によるシンポジウム
を開催します。18時30分からの夕
食懇親会では、全国の会員に交流
をしていただくほか、「祝福の歌」
「阿波踊り」などのアトラクション

を準備しています。
12日(日)

「さぬき富士(飯野山)、空海が生
まれた善通寺、さぬきうどん店巡
り」の観光&ハイキングと、「四国
一美しいと言われる三嶺」登山の
2コースをご案内します。
費用は1万9000円(宿泊し
ない場合は1万円)。問合せ・参加
希望の方は瀧由喜子総務委員長ま
でご連絡下さい。なお、締め切り
は2月末とさせていただきます。

✉ draco65and@m9.dion.ne.jp
TEL 090-15914-8671
FAX 088-1625-6215

INFORMATION

◆新版『日本三百名山登山ガイド』 全3巻の購入方法

会員の皆様に改めてお知らせし
ます。山と溪谷社のご厚意により
割引販売があります(定価の25%
引き、ただし送料は別途いただき
ます)。ご注文は日本山岳会HP
の会員専用サイトで「専用の注文
書」をダウンロードし、会員番号を
明記の上、ヤマケイ宛て FAX(03-
5213-6095)でお申し込み
ください。

◆編集後記◆

●2月11日に阿弥陀岳付近で遺体
となって発見された吉田周平さん
は、学生部委員長を務める未来あ
る若者でした。一緒だった1年生
女子部員とともに、お二人のご冥
福をお祈り申し上げます。事故詳
細は、学習院大学山岳部からの報
告を待つようにしたいと思います。
●2月初旬に会報委員会を開催。
2014年の会報を振り返り、15
年の方向性について話し合いまし
た。時事性のあるもの、良質なエ
ッセイや論評をもっと載せようと
いう意見も出ました。2000年
に会員向けに実施した会報に関す
るアンケートについて振り返ると、
この時の回収率が50%。会報への
関心が高く、また会員を繋ぐ重要
なパイプであることを改めて実感
します。(柏澄子)

日本山岳会会報 山 837号

2015年(平成27年)2月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 森 武昭
編集人 柏 澄子
E-メール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社